

会議録	
名称	令和3年度5月 富士見市図書館協議会
開催日時	令和3年5月19日(水) 午後1時00分～2時50分
場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	<p>○図書館協議会委員 渡辺志津子委員長 小森和雄委員(職務代理者) 木村多喜雄委員 佐藤千枝子委員 檜山美智子委員 辻口幸恵委員 渡邊知広委員</p> <p>○教育委員会生涯学習課 堀副課長 古川主査 石井主任</p> <p>○図書館 長谷川中央館館長 田畑副館長 大里鶴瀬西分館長 下川ふじみ野分館長</p> <p>○指定管理者 (株)図書館流通センター 東日本支社埼玉営業部 服部</p>
欠席者	野瀬武博委員 関根衣都美委員 荒川照子委員
公開・非公開	公開
傍聴	1名
次第	<input type="checkbox"/> 各館事業報告(令和2年度12月～令和3年度4月活動報告) <input type="checkbox"/> 次回開催日程について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会 令和3年度5月定例会次第 ・「自主事業報告書(令和2年12月～令和3年4月)」・「研修報告書」(中央館) ・「鶴瀬西分館活動報告書」「自主事業報告書」(令和2年12月～令和3年4月)(鶴瀬西) ・「自主事業報告書(令和2年12月～令和3年4月)」・研修報告書(ふじみ野分館) ・富士見市立図書館広報誌『さざなみだより』『とびらしんばん』『BOOK ADVENTURES』『つるせにしんばん』『ぶんちゃんしんばん』

会議録確認	渡辺委員長
議事内容	
<p>1. 開会 (田畑副館長)</p> <p>2. 各館から事業報告</p> <p><中央図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき報告 毎年恒例の「新春 貸出福袋 2021」。テーマに沿った本を数冊集め、福袋に入れて中身がわからないようにして貸し出す。本の返却時には、一緒にアンケートを回収させてもらっているが、回収時期に緊急事態宣言による休館が重なったため、アンケートの回収が5枚ぐらいしかできなく、残念だった。 ・1月の緊急事態宣言中は、利用者にすぐに借りてもらおう方法として「書き出しで選ぶ50冊」を行った。本をタイトルがわからないように英字新聞でくるみ、書き出しの1行だけを添付した小説を50冊用意した。1週間ぐらいですべて貸し出した。 ・2月は、おはなし会、映画会、外部連携ともすべて中止となった。 蔵書点検を実施した。蔵点期間中は貸出期間が延長になるので、スタッフがおもしろいと思った長編を選び「長編に挑戦」の展示を行った。 またスタッフはZOOMでの研修に多数参加した。 ・3月23日からは一部ではあるが座席の開放と、滞在時間1時間以内ではあったが、9時から19時までの開館となった。制限はあったが、館内の閲覧ができるようになりスタッフも嬉しかったが、利用者からも喜びの声を多数いただいた。 3月の展示は「Feel」1つの言葉から派生するさまざまな本を集めた展示を行った。例えば「スッキリ」という言葉では整理整頓の本や、読後スッキリする本などを集め展示した。 ・4月は、28日からまん延防止等重点措置となり、図書館イベントが中止となった。昨年できなかった中央図書館の人気のイベント「ぬいぐるみおとまり会」は感染対策をして行うことができた。この事業は、子どもがいつも一緒にいるぬいぐるみと一緒に「おはなし会」に参加し、子どもは帰り、ぬいぐるみが図書館に泊まり、本を読んだり、館内を歩いたりする写真をとり、それをアルバムにして引き取りの時に渡す事業である。またぬいぐるみが選んだ本として子どもたちに絵本も貸し出すものである。 昨年参加申し込みをしたが、コロナ禍の影響でできなかった方の参加があり、好評をいただいた。人数は少なめにして行った。 <p><鶴瀬西分館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき報告 昨年3月から新型コロナウイルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言が発令され、1年が過ぎた。 	

昨年度と比べると来館者数は伸びなかったが、昨年と今年の3月を比べると、1日当たりの利用者数が増えており、借りてすぐに帰って自宅で楽しむなど、新しい生活様式の定着があると考えた。

館内閲覧ができなかった時期は、カウンター周りですぐに資料を借りられるように、また利用者ニーズが何かを考えながら展示方法を試みた。

- 1月は「追悼 半藤一利」をはじめ、新刊もならべ、手に取れるようにした。館内閲覧ができるようになっても滞在時間が限られている間は、館内展示コーナーに力をいれ、利用者の目に止まるように工夫した。
- イベントに関し、「親子で楽しむコンサート」の開催は、例年は1回開催、対象が0歳児から未就学児だったが、2才児以上に変更し、人数も密にならないように制限して、同じものを2回に分けて実施した。

また今までは体を動かして遊ぶリトミックをしていたが、工作に切り替え、紙皿でタンバリンを作り、それを持ってコンサートに参加してもらおう参加型に変更した。

「わらべうたで遊ぼう」は2月12日から延期を繰り返し、4月2日に行った。アンケートで「人とのふれあいのない戸惑い」や、「初めての子育てで迷っていることがあっても誰にも相談できない」「他の同月齢のお子さんの成長を見る機会がない」などのご意見をいただき、開催の意義を感じた。

日程を4月に変更したため、保育園デビューの為に参加が出来なくなった方にも、講師より遊び方のお手紙や、図書館からのブックリストを郵送させていただいた。

延期の連絡は、電話や子育てモバイルやフェイスブックでも発信した。

4月のYA講座「キャラクター&シナリオ創作ワークショップ」では、YA世代(13-19才対象)が興味のあることを考え行った。

第1部では、参加者たちに、漫画家が書く画面を、直接壁に映して見てもらう方法をとった。参加者は皆さんとても絵が上手で、ワークシートに記入する際にも、説明部分に絵を描いている姿もみられた。

その後、自分の考えたキャラクターを漫画家に作画してもらい、第2部では、そのキャラクターを動かすシナリオのネタを作るために、2人1組でグループワークをした。

- YA世代へのアプローチとして、2月に富士見台中学校の1年生の皆さんにアンケートのご協力をいただいた。

中学生時代は部活に勉強にかなり忙しいと思うが、皆さん本を楽しんでいることがわかった。また、スマホやタブレットでの読書、電子図書館の利用に興味があるのが伺えた。

- 館内では、ミニ企画としてセルビアの塗り絵を続けている。

1月に毎年の福袋を少し変えて、「福本」を作成した。年が明けて初めて目にする本という意味である。英字新聞で包んでのしをつけて、その裏がクイズとなっており、回答してくれた方にセルビアの缶バッジをお渡しした。

その後は小さい子にも対応できるように、ぬり絵に切り替え続けている。今までは館内に机を置いて参加してもらっていたが、家に帰ってもできるようにしている。コロナ禍でできなくなったものもあるが、できる方法をいろいろ考えている。

- ・今年度の新しい試みとして4月から、子育てに関することと、その月のおすすめ本の棚を設けた。
- ・鶴瀬西分館、ふじみ野分館とも夕刊の提供を始めた。
- ・一方、3月から5月に延期になった講座「折り紙教室」、「図書館博士」がコロナ禍の影響で実施できなかった。

折り紙教室については、一般展示コーナー報告書の写真にあるように、展示棚を見た利用者の方からお声がけを頂くことが多々あり、今後も講座の提供を考えていきたい。

<質疑応答>

委員：このコロナ禍で盛りだくさんのイベントである。つるせ台小学校では小学校の敷地内に図書館があり、子どもたちは小さいころから図書館に行くことに慣れている。また研修が28件とあるが予算は大丈夫か。

図書館：県立図書館などの研修も受講しているが、今回本社の研修を多く使っている。本社に直接行けなかったのがオンラインで受講した。予算については、本社のオンライン研修なので、西分館は交通費も含め費用はかかっていない。

委員：本社の研修ということか。

図書館：今回色々なところの研修を行っているが、その多くは本社の研修である。

委員：図書館スタッフのメンタルヘルス研修などもあり、仕事とスタッフのことと双方で考えられていてすばらしい。「としょかんスタンプカード」はどういうものか。

図書館：春休み・夏休み・冬休みの中で、隣のつるせ台小学校と始めた。

校長先生との話し合いの中で、図書館に来る敷居を低くするため、‘借りたら’ではなく、来館したらスタンプを押すというもの。今の形になってから5、6年以上続いており、今は鶴瀬小学校にも配布している。本が苦手でも、休みの期間に来てパーフェクトを目指す児童もいる。

委員：パーフェクトは何冊か。

図書館：日数でカウントとし、今回春休みは、35がパーフェクトだった。

コロナ禍で家にいたのか、今回はパーフェクトが多かった。

委員：そういう気付きにもなる。

図書館：もともとは学校の図書室が閉まると、休みの1週間前から学校は貸出しがないので、その時期から来てもらおうと来館したらスタンプを押すということで、図書館に来るきっかけをつくることを目的としている。

委員：また賞状みたいなものを渡していて、素敵なことだと思う。

図書館：賞状をつけてお渡ししている。みんな来てくれるが、回収があまりできていない。実際は参加してくれている児童はもっといると思われる。春休みだと6年生は卒業してしまうので、保育園の年長さん向けにも行って、対象を上げたり下げたりしながらやっている。園児には賞状ではなく、折り紙で作ったものを渡している。今回回収したものの中に、新6年生も入っていてうれしかった。小さいころからずっと利用してくれている方たちで、小さいころから図書館に慣れていただくことは、上の学年になってもつながっていく、というのがスタンプカードから見える感想である。

委員：まさにそれがアンケートの結果として出ているのかなと思う。来たら押しつけて回収する、期間中に出したら賞状がもらえる、ということ。

図書館：集計をして、賞状を作ったら朝礼に行って、みんなの前で渡したりしていた。今は、状況により先生からお渡しいただくこともある。

委員：ちなみに西分館のYAサポーターは、まだ継続されているのか。

図書館：第1期YAサポーターは、今回4月に講座を実施する時もお誘いはしたが、やはり忙しく集まれてはいない。館に来てくれた時などに情報をご提供している。中学校のアンケートをとった時に、イベントごとのサポーターが出来ないかも聞いている。西分館は地域のお祭りもあるので、開催されるなら、ご案内も届けたいと思っている。

委員：すごく機能されている。

図書館：YAサポーターは忙しいので、日にちが合えばというところである。

委員：ZOOM会議とかできそうなのではないかと思う。

委員：富士見台中学校に173枚配布170枚回収となっているが、富士見台中学校の1年生は何人か。

図書館：1年生全クラスに配布した。

委員：最後に載っている写真、「すすきみみずく」と「シュロの葉バッタ」について。これは本で「草木遊び」の本があり、その本を促進するために飾ったらどうかと3館に提供した。かつては鶴瀬小学校前の入学前の子どもを迎えるお母さんたちの会に呼ばれて「ばった」を作っていた。竹の台に穴をあけて、作品をさして持って帰れるようにしていた。自然と遊ぼうという本の紹介を含めて、本との出会いのきっかけになればと思った。

委員：コロナ禍で出かけられない中、富士見市も緑豊かなので、実物を見れば作ってみたいと思うことがあるかもしれない。

委員：今は難波田城で、接触を伴うイベントができない。解禁されればこちらでもやっていく。

<ふじみ野分館>

・資料に基づき報告

左側がサービス内容、それに合わせて右側に活動状況を簡単に書かせていただいている。12月については通常開館をしていた。全館そろってイベントなども開催した。

絵本専門士の「おすすめあかちゃん絵本」展示を短期間だけ行った。絵本専門士は、講座を経て認定している資格取得者で、ふじみ野分館がぶんちゃんひろばでお世話になっているエアロブックスの講師のお一人である。

絵本専門士3人がおススメのあかちゃん絵本を紹介する講座を受講し、受講した人にはそのポップを使っていいと言ってもらったので、そちらも合わせて展示をした。普段の図書館司書が目線だけではなくて、幅広い絵本の知識を持った方の目線から選ばれたもので、バラエティにとんだ書誌だった。第2弾を考え中で、近くまた開催できたらと考えている。

- 1月の開館状況は8日までは、開館時間は他館と同じだった。

全館そろって貸出福袋を行った。大人7袋。のしをつけてラッピングを行い、一般講座でおこなった水引をつけて華やかにした。数時間のうちに全て貸し出しされた。

子どもには、ぶんちゃんオリジナルカレンダーとカードケースを付けた。

先日来館した子がカードケースを使ってくれていてうれしく思った。

子どもは14セットでこちらも好調だった。来年は大人の方も増やしていこうと思う。

1月13日に緊急事態宣言が発令され、市内公共施設の閉館が5時となり、交流センターに入っているふじみ野分館も閉館時間が5時になった。

5時になってしまうと、保育園のお子さん・親御さんがお迎え後図書館に上がってこられず残念である。

1月13日から3月21日までのあいだは、館内に滞在してもらうことができなかった。利用者からも自分で資料を手にとって選びたいという要望がたくさんあったので、密にならないことを前提に、入口からカウンターまでの道筋に、ブックトラックを置き（館内に入れない目的でもあるのだが）テーマ提示の本、令和2年度に購入した新しい本を並べて置いた。

常連の利用者からは、ブックトラックに新しい本を並べているのが本屋さんみたいでいいわねといわれた。

年度末にフジベスとして貸出上位の本を並べることを毎年行っていたが、今年度からは、新しい本を並べた展示を検討したい。

児童向けには、絵本が自由に選べないので、福袋形式で、絵本3冊と知識本を館内で使う不織布の袋に入れて提供した。テーマの本を集めて、‘ぶんちゃん貸出しスペシャルセット’とし、期間中54セット貸し出した。

- イベントは、すべて中止もしくは延期となっている。勝瀬原公園でおこなったミニおはなし会は、交流センター1階の子育て支援センターがにこにこ広場でやっているところに参加させていただいた。毎月出張おはなし会をさせていただいているが中止となっており、先生との話のなかで子どもも大人も外に行く

ことは大切という話がでた。先生が荷物を持って公園をめぐっているという話を伺って、近くの勝瀬原公園なら図書館からも行けるということで、3月10日と18日に子育て支援センターの先生と一緒にやらせていただいた。絵本を2冊読んだ。親御さんもかなり集まっていて、気分転換になったのではないと思う。

- ・緊急事態宣言が解除され、3月23日から4月27日は、開館時間が夜7時までになり、事業も通常通り行った。こちらは事業報告書にくわしく載せた。セルビア写真展は、展示コーナーに、ブックトラック1段だけで常設はしていたが、オリンピックが近いこともあって、市からオリンピック、パラリンピック、セルビアの写真をお借りして、廊下に展示をさせていただいた。それに合わせて中央館からもセルビアの資料をお借りし、いつもよりも大きく特別展示とし、ふわっぴーとセルビアコラボの缶バッジも180個ぐらい頂いた。お子さんにはふわっぴーのセルビア関係のぬり絵、大人には、オリンピック選手パラリンピック選手に一言書いて持ってきていただくと、缶バッジがもらえるようにした。大人は40枚、子どもは176枚集まった。期間中は廊下に掲示をし、昨日オリパラグループにお渡しした。選手団に会うときにご紹介いただければと思う。
- ・イベント以外については、慶櫻ふじみ保育園でのおはなし会を出張で行っていたが、コロナ禍でできなくなってしまい、プログラムに沿った本を4月から毎月お届けしている。絵本の配本は、子育て支援センターにこにこ広場用には、あかちゃん用とお母さん用をセットで貸し出している。
- ・スタッフおススメ本を5日と20日に更新している。館内奥まったところに設置しているが、スタッフの文章力を育てるためにも行っている。
- ・館内装飾について、児童中心だったが、大人の方にも目で楽しんでいただけるように、季節に合った飾りをしている。現在は富士見市の花である藤を飾っている。

<質疑応答>

委員：少ないスタッフでこれだけやっていてすごい。

配本とは、あげているのか。貸しているのか。

図書館：団体貸出として1ヶ月貸し出しをしている。

委員：慶櫻ふじみ保育園の30冊とは、読み聞かせリストに沿って年少・年中・年長にあわせてそれぞれ30冊貸し出しているのか。

図書館：0～2と3歳以上のおはなし会としていたのでその対象で出している。

委員：12月4日の勝瀬小学校5年生の伝記資料とは。

図書館：授業でまとめることがあるということで、読み物と絵本を4-50冊セットで貸し出しをした。

委員：勝瀬原公園のおはなし会は雨の時はどうするか。

図書館：雨の時は中止である。

委員：中央館でもお隣でやれたらいいと思う。

全館に対して言いたいのだが、令和2年令和3年と2020年2021年の表記を統一したらどうか。

図書館：統一する。

委員：大人向けのイベントが少ないが。大人の来館は少ないのか。

図書館：年配の方は多く、あとはお子さんの親御さんが多い。イベントに関しては強化していかなくてはならないと思っているのだから、この時期はなかった。

委員：人員は非常に心配。今コロナで非常に利用者も少ないからいいが、今回の協議会の資料も、委員としては非常にありがたいのだが、土日たくさん来館するようになったら、前を踏襲するとなるとスタッフが疲弊してしまう。館長さん含め、通常になった時は、あまり前例と思わずに縮小したほうがいいのかと思う。その中でも、ふじみ野分館や鶴瀬西分館が4月1日から朝日・読売・毎日の夕刊購入しているのがいい。費用はかかるが、大人向けイベントもできない中、夕刊は自宅で購入できない人や、大学生の就職支援とかにもいい。これは宣伝したほうがいい。

研修は、今はZOOMだからいいが、これが平常時になると減ってしまうかもしれない。平常時にもどったときに、研修受講や図書館協議会の資料を細かく作らなくてもいい。活動報告の1枚でいい。トピックでいい。または、プロジェクターを使うなどしてもいいのではないか。開館状況の館内利用について、中央館のホームページに表記が見当たらなかった。わかりやすいところに書いてほしい。

図書館：掲載はされていると思うが、6月にホームページを更新するので、トップページに開館状況が載るようにデザインし、わかりやすくしていく予定である。

委員：わかりやすくなるといい。

市内小中学校に、タブレットが配られた。タブレット上で、図書館にかかわれることをするとよいと思う。また、学校の近くに図書館があるとないのではやはり格差が出る。富士見市は、地域によって図書館利用に少し差があると思う。鶴瀬西やふじみ野分館のように小規模な図書館に行く子は、小さい頃から読む子が育つ。市内に分館を作る、もしくは標準化できるようなことを考えたほうが良い。

鶴瀬西の中学校への調査アンケートは、とても良いので、この数字を生かしていただきたい。このアンケートは生涯学習課に出しているか。

図書館：出している。

委員：このアンケートは、今後の図書館運営の参考となるので、生涯学習課に是非使ってほしい。

絵本専門士もふじみ野分館ではずっとやっていると思うが、中央館や鶴瀬西分館にも共有ができないか。また「スタンプカード」も、共有できないのか。

図書館：鶴瀬西、ふじみ野が作成している以外は、中央館で昨年今年と全市分の新1年生の利用カードを作った。1年生900人のうちの78パーセントが新規登録である。また昨年度、1年生全員に「ふたりはともだち」という本のプレゼントをした。今年度も予定している。

委員：予算はどこから出ているのか。

図書館：本は、指定管理の「セカンドブック」という事業なので、予算は指定管理料からでている。今年も届ける予定である。

団体貸出については3校から配送できないかと問合せがあり、関沢小学校からは毎月1回できないかと依頼が来ている。

今後どのような形ですすめていくか、検討中である。

委員：小さいお子さんがいる家庭では、情報がないと思うので、広報活動の一環として情報があれば出していくとよい。ブックスタートももらっていない人がいるのは、もったいない。

図書館：集団健診が中止だったので、それぞれがお近くの医療機関で健診を受けて、近くの図書館で本を受けとれる仕組みになっていた。

委員：その中で「あいあい」が、健診後読み聞かせをしていた。西分館が言っていたお母さんの孤立の解消に向けても集団健診が始まって良かったと思ったが、今年度の読み聞かせ部分が中止となっている。今年度の途中でコロナ禍が収まったらできないのか。

生涯学習課：教育委員会の方針ではなくて、担当課から健診をする際に今年度は読み聞かせはご遠慮くださいと言われている。

委員：読み聞かせを録画しておいて動画を流すなどどうか。それをホームページにアップするとか。著作権の関係でなかなかできないが、保証金を払えばできるようだが、どこが払うのか問題である。

東京子ども図書館の理事長の読んでいるものにリンクをはるとか、著作権クリアなら自分で読んでみることはできないか。ネットに載せずに、「あいあい」が読んでいるものを館内だけに流すなど。大変だけどお母さんが孤立しないように、ホッとする時間を作ってあげてほしい。

図書館：今後、中央館児童コーナーに、子育ての本や施設関係のパンフレットも一緒に並べていく予定である。

委員：協議会資料については、指定管理者から市へ報告するのを兼ねて作っているのか。

図書館：(西分館)月ごとの報告書や、四半期ごとの報告書から、また協議会の日程により報告書の締めが月次と変わっているので、協議会用に作ったものもある。

委員：通常時は無理だろう。単純に報告してあるものでよい。イベントは、人と知恵と手が必要だ。そちらに注いでよいのではないか。

委員：コロナ禍で、バリアフリーになり音訳もすごく忙しくなった。図書館が研修報告書をつけてくれて、どういうことを勉強しているのかがよく分

かった。これから図書館と私たちが共通に一緒に進んでいくことがわかり、うれしかった。委員にならなければ報告書を読めなかったのも良かった。

私たちは、マルチメディアデイジーもやっているし、資格取得用などのものも音訳し、テキスト化している。

全国で分担しながら音訳を行っており、それを使って資格が取れたとの報告もあり、目には見えないがコミュニケーションと、ネットワークの大切さを感じている。これからもよろしくお願ひしたい。

委員：今回 ZOOM だったので有名な先生のものも受講できたが、今後もあるかわからない。

中央館には視聴覚室があるから、ZOOM を使って双方向型で会議することもできそうだ。

今までの図書館とは違うが、人が少なくてもやれることをやってほしい。また研修を受けた方が他の方へ引き継ぎなどで伝えられると良い。

東京子ども図書館の読み聞かせはぜひ一度みんな聞いてみてほしい。

今後は学校図書館のフォローが大変だが、ぜひ続けて行ってほしい。

最後になるが、今後もいい図書館を作っていってほしい。

3. 次回開催日程について

2021年6月25日（金）午後1時30分より開催

4. 閉会